

【古今著聞集】

【】(信安といふものありけり)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

信安といふものありけり。世の中に強盗はやりたりけるころ、もし家がさるる事もぞあるとて、強盗をすへらかさむ料に、日暮るれば、家の外に小竹を多く散らし置きて、つとめてはとりひそめけり。ある夜、家近く、焼亡のありけるに、あわてまどひて出づとて、その小竹にすべりて、まろびにけり。腰を打ち折りて、年の寄りたれば、ゆゆしく、わづらひて、日数経てぞからくしてよくなりける。いたく、支度の勝れたるも、身に引きかづくこそをかしけれ。

(古今著聞集)

問一 「まろびにけり」の主語はだれか。文章中の言葉で答えよ。

問二 「わづらひて」を現代仮名遣いに改め、平仮名で書け。

問三 「支度」について、次のA・Bの問いに答えよ。

A 「支度」の具体的な内容が述べられている部分を、文章中から十五字以内で抜き出せ。

B 信安が何の目的でこの「支度」をしたのが述べられている部分を文章中から十字程度で抜き出して答えよ。

問四 「身に引きかづく」とあるが、これはどういうことが、最も適当なものを次の中から選べ。

A かえって年寄りにはいい薬になること

I かえって取り越し苦労に終わってしまうこと

ウ 逆に身体の心配のしすぎにつながるごと

エ 逆にわが身にふりかかって災いのもとになること

(島根県)

「解答」

問一 信安(といふもの)

問二 わずらいて

問三 A 家の外に小竹を多く散らし置きて B 強盗をすべらかさむ料に

問四 エ